Title	女子聖学院に招かれて：二〇一四年度女子聖学院中学校入学式 校長式辞
Author(s)	田部井，道子
Citation	キリスト教と諸学 ： 論集, Volume29， 2015.3：81-85
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5521
Rights	

聖学院学術情報発信システム ： SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

女子聖学院に招かれて

――二〇一四年度女子聖学院中学校入学式　校長式辞

田部井　道　子

あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。（ヨハネによる福音書一五・一六）

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

またご列席の保護者の皆様、お嬢様のご入学、心よりお喜び申し上げます。

女子聖学院の教育に信頼を寄せてくださり、お嬢様をお預けくださいますことを、心より感謝申し上げます。教職員一同、心を尽くしてまいります。

新入生の皆さん、いよいよ今日から女子聖学院での学校生活が始まります。そこで今朝は、これからの女子聖学院の学校生活の中で、ぜひ皆さんに心がけていただきたいことを、三つお話ししたいと思います。

まず一つ目。それは「どんなことに対しても、自分から積極的に関わっていく」ということです。言い換えると、いつもできるだけいろいろな問題に関心をもつこと。そして「今自分は何をしなければいけないのか」を、自分で考えるようにしてほしいということです。つまり「どんなことも自分の問題として受け止めるという姿勢をもつ」ことです。

それは、勉強でも、クラスあるいはクラブ活動においても、また友達との関係においても同じです。例えば、勉強を取り上げてみれば、これまで、皆さんは、自分のために勉強をしてきたと思います。入学試験で合格をすることを願って、勉強してきましたね。しかし、女子聖学院では、本当の勉強、本当の学びというのは、自分のためだけでなく、同時に周りの人々を生かすことができる勉強でなければならないと考えています。

私たちは、「他の人たち」と一緒に社会を作り、世界を作り、とくに皆さんは未来を作っていく人たちです。「私だけが幸せになるのではなくて、どうすれば、皆が幸せに生きることができるだろうか」。「そのために自分は何ができるだろうか」。そういう目的をもった勉強が、本当の意味での勉強、学びであると、女子聖学院は考えています。本当の勉強とは、人との競争ではなく、「共に学び合い、お互いに知識を深め合う」学びなのです。またそういう勉強こそが、皆さんの力をもっともっと広く深くし、将来周りの人々を生かし、また自分らしく生き生きと生きるための力となっていくはずです。

私たちはいま、日本という、他の国々や地域に比べれば、とても豊かで平和な社会に暮らしています。しかし世界には、今日の食べ物に困っている人々、病気になっても治療を受けることができない人々がいます。学校に行けない子どもたちもたくさんいます。

「どうすれば、一緒に豊かな社会の中で生きることができるのか」。そのためには、「自分には、今なにができる

のか。そして将来、何ができるのか」。いつも、そういう関心をもって、どんなことに対しても自分の問題として受け止めるように心がけてください。これが第一のことです。

二つ目は、女子聖学院では、どんな時も「私は私であり、あなたはあなたであること」、そのことをお互いに認め合って、大切にし合っていることです。

私たちは、誰もが「自分らしくあるように」と、神様から一人ひとりに「その人らしさ」を与えられています。私たちは、自分の中に、気に入っている所もあれば、嫌だなと思う所もあります。また、自信のある所もあれば、弱い所もあるはずです。また皆それぞれに様々な個性や才能があり、考え方も違います。そうしたものはみな神様から与えられたものなのです。そしてそうしたことすべてが、いまの「わたしらしさ」、「あなたらしさ」をつくっているのです。

「いつも、自分らしくありなさい」ということは、私たちはみな一人ひとり違っていること、また違っていていいのだ、ということです。ですから、女子聖学院では、自分を他の人と比べたり、背伸びしたりすることは意味があることとは考えていません。

一番大切なことは、「いつもあるがままの自分であること」なのです。

そしてまた、「自分が自分であること」が大切なのは、そうであって初めて、私たちは、「他の人も、その人のまま、ありのままに受け入れることができる」ようになれるからです。

そしてそのために女子聖学院では、いつもお互いに、相手のことを気遣うことを心がけています。相手の立場を考え、相手の考えを尊重するということです。そうあって初めて、私たちはお互いに心から信頼し合い、励まし合

い、また時に慰め、力づけ、助け合い、支え合うことができるようになるのです。

そして三つ目に覚えておいてほしいこと。それは、「私たちには、どんな時にでも、いつも神様が共にいてくださる」ということです。

女子聖学院は、一九〇五年、神様から日本に遣わされた、バーサ・クローソンという一人の女性の宣教師によって始められました。その時以来、女子聖学院は、いつも神様に守られてきました。そしてどのような時代であっても、毎朝、今朝のように、聖書を読み、賛美歌を歌い、お祈りをする、つまり、「礼拝を守る」ということから一日の学校生活を始めてきました。皆さんの六年間も、礼拝から毎日が始まります。

そして女子聖学院は、「神を愛し、人に仕う」という言葉を大切にしてきました。それは、学校生活を通して、神様と出会い、神様を精一杯愛すること、そして、また周りの人たちのために自分ができうることがあれば喜んでする、そういう生き方が何よりも大切な生き方だと考えているからです。

神様のことを書いた書物が「聖書」という本です。その中に、神様は、目には見えないけれど、どんな時でも、私たち一人ひとりを優しく守り、支え、慰め、励ましてくださる方であるということが書かれています。神様は、私たち一人ひとりを、かけがえのない人として、大切にし、いつも愛してくださり、やさしく包んでくださるお方なのです。

ですから、どうか安心してこれからの学校生活を、「自分らしく」過ごしてください。そうすればきっと女子聖学院がとても楽しい学校であることがわかるはずです。

ここまで、今日からの女子聖学院での生活を始めるにあたって、心がけてほしい三つのことをお話ししてきました。一つ目は、「どんなことに対しても自分から積極的に関わっていく」ということ。二つ目は、「女子聖学院では、どんな時も「自分らしくあること」をお互いに認め合い、大切にし合っていること」。三つ目は、「私たちには、どんな時にでも、いつも神様が共にいてくださる」ということ。どうかこれらのことを覚えておいてください。

さて、皆さんは、二月の試験に合格して今日を迎えました。しかしそれは昨日までのことです。皆さんは試験ができて合格したからここにいるのではないのです。そうではなく、最初にあげました聖句にありますように、神様が、女子聖学院の生徒として女子聖学院で学ぶようにと皆さんを選ばれたのです。

そして、同時に、皆さんには、今日、一〇九年目の長い女子聖学院の歩みを引き継いで、さらにそれを未来に向かって新しくしていく、という課題が神様から与えられたのです。その課題に応えられるように、これからの学校生活の中で女子聖学院の生徒として心豊かに成長することを願っています。

今日この場に集められている私たちがみな、心を一つにして、神様のみ守りの中、今日から新しい女子聖学院の歩みを始めていきましょう。

新入生の皆さん、あらためて、ご入学おめでとうございます。

（二〇一四年四月八日、女子聖学院チャペル）